

第3回佐久市地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会 会議録

日 時：令和7年3月13日（木）

午後2時～4時

場 所：佐久消防署 3階講堂

出席者

委員（18名）

原 拓男	識見者（アテネオリンピックバスケットボール競技・女子選手団長、元教育長職務代理者）
市川 大輔	佐久市立浅間中学校 教頭（代理出席）
塚田 直道	佐久市立野沢中学校 校長
北垣内 博	佐久市立中込中学校 校長
芝野 崇	佐久市立東中学校 校長
堀籠 英和	佐久市立臼田中学校 校長
佐藤 元昭	佐久市立浅科中学校 校長
飯島 廣樹	佐久市立望月中学校 校長
大塚 寛美	佐久市スポーツ推進委員 会長
篠原 一郎	（特非）もちづき総合型クラブ 理事長
萩原 和章	（特非）もちづき総合型クラブ（学校運動部活動指導士）
土屋 岳	岸野スポーツクラブ 会長
原 暁生	佐久平バレーボール協会 総務委員長
平林 照義	佐久バスケットボール協会 副会長
沼田 浩人	佐久サッカー協会（（特非）佐久市スポーツ協会 サッカー部 部長）
小金澤茂喜	佐久地区剣道連盟 副会長
小林 英明	佐久レーレルコール 事務局長
出口 哲朗	長野県教育委員会事務局保健厚生課 教育主幹兼学校体育係長

事務局（10名）

工藤社会教育部長、佐々木学校教育部長  
スポーツ課 木内課長、大島スポーツ推進係長、神津  
文化振興課 中沢文化振興課長、有賀文化振興係長  
学校教育課 小林主幹指導主事  
スポーツ協会 吉澤事務局長、井出

1 開 会

2 あいさつ 工藤社会教育部長より

### 3 協議事項

- (1) 第2回佐久市地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会の経過確認【資料 1】
- (2) 休日部活動地域移行の状況について【資料 2-1, 2, 3, 4, 5】
- (3) 人材バンクについて【資料 3-1, 2, 3】(資料 3-3 については内部資料扱い)
- (4) 質疑・意見交換

(1) 第1回佐久市地域スポーツ・文化芸術活動推進連絡協議会の経過確認  
資料1について事務局より説明

(2) 休日部活動地域移行の状況について  
資料2-1~5について事務局説明後、小金澤委員、原委員より補足説明

#### 【委員】

運営費について、長野県剣道連盟の基本方針の中で県内4地区の状況が分かってきた。千曲坂城クラブの剣道専門部が保険料含め年3,000円で市からの補助あり。安曇野の剣道クラブも年3,000円で市からの補助あり。飯山支部は月1,000円で市からの補助を検討中。飯田下伊那方面のクラブは年1,000円で会場は市立武道館のため使用料なし、という状況。これらを鑑みると、佐久地区剣道連盟では1回500円で実施しているが高いのではないかと、保護者からもなぜ500円も負担があるのか資料2-5にもあるように意見が出ている。このような意見も踏まえ、4月からは1回200円にしよう、と考えている。収支について厳しい状況だが、佐久市の補助が見込めない状況なので、指導者の謝礼はなしということで賛同を得て決定している。

会場については、県立武道館の使用料、確保についてはとても厳しいということであるが、佐久地区剣道連盟の定例稽古会というものを毎週土曜日にやっているのをこれに併せて試験的に地域移行を実施していくことを連盟の協議会で検討し、4月から実施していくことを決定した。課題としては、中学生と大人の稽古なので、練度や実力の差が当然あるので、どのように克服してくかということがある。また、コンプライアンスの問題について、剣道や柔道には特有だが相手を指導しているのか、外からみればいじめているようにも見えてしまうこともあるので、難しい部分もあるが互いに理解しながら、行き過ぎた指導があれば注意をしていくように考えている。

指導者の確保について、土曜日に指導者をお願いしても大変、ということではなかなか思い通りに集まっていない。部活動の一環として活動しているので顧問には連盟からの謝礼が不要なことから、現在は顧問・教員が対応している状況がある。本末転倒のような状況なので、一刻も早く佐久市の対応をお願いしたい。

大会参加について、令和7年度は中体連へ合同チームの大会参加の書類を提出し、「佐久地区剣道クラブ」として承認を得て大会参加が可能になっている。

4月からはまた参加者の募集開始となるので、市内小中学校の校長先生へのお願いになるが、剣道が合同練習をしているということで声をかけていただきたい。また、佐久市からの補助について早期の検討を重ねてお願いしたい。

### 【会長】

剣道に限らないが、お金の問題と会場確保、指導者確保が大きな課題だと感じている。他にも会場までの移動手段について、市内外から集まってくるわけだが、自転車や保護者の送迎などによるのか。

### 【委員】

現在は保護者に送迎してもらっている。千曲坂城クラブでは移動のためタクシー代が出ているということを知っている。

### 【委員】

バレーボールについて、男女1回ずつ合同練習を行った。このような練習会となると技術講習がメインになってくる。チームを作らなければいけない時期になってくれば、練習試合やゲーム形式にして参加者の中でチームを組んだりして、運営していく中で、柔軟に対応していく必要がある。

一番の課題は会場確保で、1, 2年生の練習だけで女子は3校で25名、男子は3校で31名となっているので、新1年生が入ってきた場合に同じように練習ができるかという点と厳しい。また、生徒が増えればそれだけ指導者も必要になってくる。1年生からバレーボールを始めた子には別メニューを組んで対応する指導者も必要となり必然的に必要人数が増える。各学校に1人協会から指導者がついたとしても、それだけでは人数が足りないになってしまうのが実際だと思う。

先ほどから会費の問題が出ているが、指導者にお金を払わなくてよければ解決するのは事実だがそれで持続的な活動になっていくのか、指導者が集まるとは思えない。学校部活動ができてきているのは部活動手当がついているからであって、そうでない人達は自分のチームを持ってチームのためにやっているが中学校の活動に来てください、と行ってやってくれるのか。佐久平バレーボール協会としての活動となってくるとその中で日当が発生してくるがそればあくまで協会の中での活動であり、地域移行についてはあくまで協会の手伝いをしていてと捉えれば協会のお金が謝礼などとなっていくので運営する側としても費用が負担となってくる。どこか財源となるものがなければ回っていかないと感じている。お金を集めるという部分については意見が出ているようだが、市から補助をしていただかないと会費の減額というのは苦しい。

参加者からの感想もいただいており、他のチームと一緒に練習できてよかった、普段の練習ではできないことを教えてもらった、練習や準備体操の意味についても考えることができ良かった、などと聞いている。保護者からも成長した姿が見られたといった意見がある一方で、佐久市の地域移行の狙いが伝わらず混乱していることも見受けられた。休日部活動の地域移行後も大会参加については学校単位でと考えているが地域移行したチームで参加するのか、というお問い合わせがある。資料2-5にもあるが、チーム競技だからこそ分かっていくところもある。来年度以降部会で説明をしていかなければと考えているので、ご承知おきいただきたい。

最後に、学校の先生方に指導に協力いただく際には兼職兼業届を提出することになるが、年度当初に新年度の顧問に集まってお聞き趣旨について説明した上で、協力してもらえ

る方には年度当初に兼職兼業届の提出を依頼していくということを協会の中では考えているので、校長先生方にはご承知おきいただきたい。

#### 【会長】

一番のポイントになってくるのは金銭的なことだと思う。今までは無料だったものが地域移行すればお金がかかってくるということを理解してもらうのはなかなか難しい。本来は国からの予算があつてしかるべきであるが、何とか地域移行をしたいと思っているが一朝一夕にはできない。お金があれば指導者確保も解決できることもあるが、現状では難しい。市や県でも予算を付けてもらわないと難しい問題ではないか。

#### 【委員】

バスケットボールでは、資料 2-2 にある通り各学校の顧問の先生方とクラブチームの代表者で意見交換を行った段階。課題にあるように、バスケットボール競技としては令和 9 年度から参加できる大会が限られてくる。中学校 1 年生と、小学校 6 年生は、入部したときにクラブチームに登録するのか、中学校の部活動に登録するのかを決めなければいけない。そこに登録したらその後 3 年間はそのまま活動しなければならず途中で移籍をすると大会に出られなくなってしまう。そんな状況なのでバスケットボール部に入る生徒は減ってしまうのではと考えている。その住み分けが 3/2 に公表され、競技についての登録と地域移行に関する内容が整理できていない状況。今後中学校の部活動としてのバスケットボールの人数は大分減っていくのではないか。女子は佐久市内に 6 つのクラブがあるが、男子は 1 つしかない。そのような状況の中でどこまで受け皿になってくれるのかというところ。「例えば休日の部分だけ、受け皿として指導者として参加できますか」と言う事を聞いたが、自分のクラブチームの練習があつたり遠征があつたりするので、自分のチームの練習に受け入れることは可能だが、独自の練習指導者として活動していくのは、なかなか難しいという回答だった。指導者としてやりたい、という人はすでにクラブに所属して指導をしている状況なので、これから見つけていくのは大変で課題として考えている。

いずれにしてもバレーボールと同じような課題であり、地域クラブがそのままチームとして出てくる大会がなくなっていくので、個人の技術を磨く練習の場を設けるとするのが一番現実的な方法ではないか。来年度にそのような機会が持てればと考えている。

先生の方から、指導者が見つからないなど地域移行がうまくいかなかった際に、引き続き部活動が行えるのか、指導に行った場合には身分はどうなるのか、兼職兼業届けを出して、一般の指導者として参加しないと指導ができないのか。そのような部分の確認をしてもらいたいという要望があつた。

#### 【事務局】

今の方針では、できるところから 7 年度末までに休日部活動の地域移行をしていくのが目標だが、うまく地域移行できないものが出てくる可能性もある。そこを学校部活動として続けていけるようお願いしていくのか、部活動としても続けられなくなるのか、検討しながら 7 年度中に受け皿を作っていく。急に部活動がなくなるということは避けなければと考えている。

### 【会長】

もしできなかったらというのは基本的に考えていないと思うが、7年度にできなくてもよい、ということになると、無理して移行しなくてもよい、という話が出てくる。佐久市の方針でこうするので、ここまでにやってください、というしかないと思っている。

### 【委員】

剣道とバレーボールでは実施を重ねてきて何とか土日の形を作っていこうをしているが、例えば野球は協会としてはやりませんということになれば、野球部は土日も顧問が指導しなければならない、それでは地域移行にならないのではないか。

また、一番の懸念は費用の問題で、指導者への謝礼、保護者の負担のところを見通しを持ってるように解決していかなければ、年間3,000円かかるから、1回500円かかるから行きません、参加できません、となれば地域のものになっていかない。指導者が集まらないという話もあったが、どのくらい謝金が出るのか、子ども達のために競技普及のため考えていかないといけない。今佐久市で考えている形は1回見直さないと、進まないのではないかと思った。

### 【委員】

長野市では既に平日部活動が地域移行されており、財源は長野市が支出して保護者が申請するというようになっており速やかに動いているという状況。松本市では「まつもと子どもチャレンジクラブ（まつチャレ）」を母体として地域移行が予定され令和7年度の休日部活動を夏の大会終了後には地域に移行する形になる。補助金はまつチャレに登録していれば初年度上限10万円が出て、公認スポーツ指導者の資格取得への補助もある。上田市では、ここ2年間で財源や人材を集めて、中学校では来年度ですべて地域移行していく状況と聞いている。

どういったところで部活の地域移行の活動がしっかり動いているかという点、各学校での部活動の募集を止めたところで、地域移行を完全に進めていくという状況かなと思う。学校側として、来年度の夏の大会をもって募集を停止しますというような形にしないと、地域移行が進んでいかないと感じている。資料2-4に令和6年度は剣道とバレーボールをモデルケースとして様々な課題をクリアしていきます、とあるが先ほどの話ではクリアできていないようだが、令和7年度に入って次に行くことができない。モデルケースでさえ会場、費用、人材、異動について解決できていないので、7年度進むかという点かなり厳しいので、顧問から様々な疑問が出てきている。ここで募集をやめる、ということを宣言する、そのくらいの気持ちで動かなければ、やらなくてもよいのでは、となってしまうのではないか。それを宣言できるような状況を、モデルケースで特に財源、人材の課題を解決していただかなければと思う。

### 【会長】

先ほど、剣道では指導者については無償でよいと納得してもらった、という話があったが、それは今後ずっと、という意味でよいのか。

**【委員】**

個人的には続かないと思っている。学校の先生だけでなく一般企業に勤めている方もおり、土日は休みたい。中には修行としてやりたい、と思う人もいるが、中学生を相手にするとどうなのか。長続きはしないのではないかと思う。また、剣道の場合は竹刀を使うので、相手に対する損害賠償が発生してくる可能性がある。そのための保険にも入る必要があるので負担になる。

**【委員】**

県の中体連の会合に出た際の情報では、長野市では補助チケットという形で、スポーツクラブ、文化活動、学習塾も含む登録された団体で使用できる3万円分のチケットが用意され、申請すればもらえる。市の予算でそのようなことをしている。

**【委員】**

剣道ではその3万円の中から先に例えば2,000円いただいて運営しているとのこと。剣道では500円が高いという意見もいただいているので、企業にも協力していただいて、ということも考えている。

**【委員】**

部活動運営委員会に2月に来て説明してもらったが、保護者の方から地域移行により負担が増えることについての声があった。また、指導者に対しての予算面での支援を求める声が多くあった。職員はなかなか発言できなかったが、まずは休日部活動の地域移行ということだが、平日についても進めてほしいという声が多い。部活動指導員について人数を増やしていくという方向についても支援をしていただければありがたい。

**【委員】**

今の休日部活動を地域移行するということであれば、協会としてはこのような活動のやり方ができるということで進めている。ただ、平日の部活動も、となってきた時には協会で全てやっていくというとなれば苦しい。平日の指導までできる人を探してくれ、というのは厳しい。バレーボールだけの話をすると、平日部活動についてもとなればどこが実際に受け入れるのか。小学生のバレーボールチーム、もっと言えばスポーツ少年団に中学生まで受け入れてもらっていかないと回っていかないので、と協会でも話している。長野市、松本市、上田市のように平日も地域のクラブに移行していく、と数年で佐久市が変わっていく可能性があるとするなら、変わってから考えるのは遅い。その辺りがはっきりしないと、こちらでもどのように協力を求めていくのかははっきりしてこない。

例えばバレーボールでは、長野市で既にクラブチームがあり、中体連に参加している。松本市でも同様で、上田市でもクラブチームがあって、そういうチームが出てきている。ただ佐久ではクラブチームで参加しているところはなく、ゼロから作って登録してください、というよりもスポーツ少年団に依頼をしていくという手続きをとっていかないとスタートは間に合わないだろう。佐久市がどういうふうに捉えているかわかってくると、今後のところが非常にわかりやすい。

### 【事務局】

本来は教育長から思いを伝えなければならないが、教育的な立場から非認知能力を育てていかなければ、という意味で学校部活動が必要だろうというところ。また国の流れが当初は令和8年度には休日部活動を、ということだったのが後倒しになっており、全国的に上手くまとまっていない状況があり様子を見ているのではないかと思われる。そのような状況で佐久市ではまず休日部活動からという方針を出しているところであり、本当に学校から部活動がなくなってしまうことが教育にとってよいことなのか、教育長とすればそこを見極めていきたいというようなところが本音。長野市や松本市のように急激に進めていくということは、現実的にも難しい部分もあると思うが、そういった理念的な部分があるので、現状においては土日をまず移行していきたい、という話になる。

### 【会長】

この協議会設立時から、学校の部活動は絶対なくしちゃいけないという意見は、私と吉岡教育長で同じ考え方だった。学校の部活動を全部なくして、全部地域に移行することは絶対やめた方がいい、学校での指導もきちんとやっていただいた方がいいと思う。

### 【委員】

合唱部は市内では2校にあるが、地域のクラブと部活動を組み合わせて進めて行ければ、昨年のNコンでは岩手県の6つの中学校の合同チームが全国最高位を取ったように、そのような活動となる可能性も考えられる。

吹奏楽部は7校にあり、楽器の運搬や練習場所などについてクリアしなければならない課題が多いと感じている。

### (3) 人材バンクについて

資料3-1～3について事務局より説明

### 【会長】

佐久市で指導可能な方として36名の方が申込されているということで、謝金額については決まっていないということだが、佐久市では来年度について地域移行に関する予算は取っているのか。

### 【事務局】

本協議会及び部会の委員謝礼など開催費について、またコーディネーターの人件費と人材バンク登録者への指導者講習に関する講師謝礼を新たに計上している。

### 【会長】

コーディネーターは絶対に必要なことなのでそれは良いが、実際に進んでいる剣道やバレーボールといった競技の謝金等についても考える必要があるので、検討してもらいたい。

### 【委員】

資料 3-2 中段に「佐久市では令和 7 年度末を目途に休日部活動が N A C S へ地域移行されていきます」とあるが、令和 7 年度末にいくつの競技が移行されるか。今の状況でこれを出しても良いのか。結局地域移行できたのは 2 団体だけでほとんどできなかった、とならないか。また、裏面の運営団体の部分に「中学校」とあるが、なぜ中学校が入っているのか。

### 【事務局】

佐久市部活動地域移行の方針に基づいて、令和 7 年度末を目標に休日部活動の地域移行を進めている。中学校が入っている理由については、部活動指導員としても紹介できるように並行して募集していくことを想定しているためである。

補足となるが、資料 3-2 については、あくまで人材バンクの募集であり地域移行のクラブをいつ、いくつ作る、ということではない。モデルケース以外の競技については進められていないということは承知しているが、現在中心になって進めている連盟や協会がある競技は良いが、そのような組織がない、誰が教えるのかとなった際には登録のある指導者から紹介していくことも想定している。県においても指導者リストとして取り組んでいるが、地域移行に当たっては指導者が必要である、との考えによるものと認識している。モデルケースであってもレベル別の指導をすれば人数が必要になることも考えられるので、その際にはこの人材バンクからお願いすることも想定できる。地域移行に対しての 1 つの取組みとしてまず行っていく。

### 【委員】

学校に剣道部があるが、外部コーチに無償で長年指導していただいております、子どもたちも懐いている。今回の地域移行では県立武道館まで移動が必要で、会費も生じているが連盟の方々に丁寧に説明いただき、今は不協和音もなくなり熱心に取り組んでいる様子。しかしこれがいつまでに、とならないと私達だけが馬鹿をみてしまった、という状況になる可能性がある。例えば令和 7 年度末以降は休日部活動が学校では一切しませんが、というように区切っていかなければ変わっていかないと思う。7 年度末を目途に、という気持ちで学校側でも説明して行ってしまっても良いのか。

### 【会長】

指導者がいなければ地域移行はできないので、指導者を募集していますということ自体はいいことだと思っているが、どこに配布するか、ということは決まっているのか。

### 【事務局】

学校の教職員ほか、スポーツ協会の専門部といったスポーツ団体、市役所内の部活動（市役所職員）、市内企業などに配布して連携していきたい。広報も活用してできるだけ多くの目に触れるようにしたい。



## 【会長】

登録できないとやりたい人もできないので、できるだけ周知につながるよう広報の一角に掲載するだけでなく、1ページを使うようなやり方を検討してもらいたい。

何かご意見などある方はご発言願いたい。

## (4) 質疑・意見交換

### 【委員】

一昨年の1月にはじめてこの協議会が開催されたが、地域の部活動の指導者や保護者にまず説明をして欲しい、と要望したが最近になってようやく学校などでの説明が始まってきた。そのため、資料2-5のように単純な質問が出ているのではないか。

部活動の考え方としては、専門的なスポーツであると考えてるのではなくて学校教育の一環だと思う。非認知能力が重要であり、授業で教えているものは答えがあるものだが、部活動でのコミュニケーションや学校生活とは異なった社会的立場での活動となり、運動や芸術活動により培われるものであると考えている。絶対に中学校の部活動はなくしてはいけない。ただ、部活動は競技力を高めるのではなく、楽しめることが重要で、部活動では指導をするのではなく見守る程度で子どもたちに任せて運用すべき。さらに競技力を高めたいのであれば地域のクラブチームに、全国や世界を目指すのであれば別に行くべき場所がある。部活動は一般の教育とは違うが、学校で教えるべきものであるので、無くさないでほしい。

学校部活動には予算がついているが、地域に移行されれば予算がなくなる。指導者の謝金や団体への補助は国・県・市でもサポートをしていかなければ立ち行かない。全ての活動が同時進行で動けばよいが、それぞれの部活動で状況が違う。この人材バンクの募集についても、一切お金についての記載がない。目安も出していないということだが、お金が一番大事な部分。剣道の話があったが、ボランティアで無償指導するというのは持続していくはずがない。運動はタダでやるものだという意識が根付いているが、我々のクラブでは参加料として1人1回300円徴収しており、それが定着している。受益者負担である程度資金を取っていくべき。部活動を競技としてではなく、楽しめる場所として捉えていただければありがたい。

### 【委員】

バレーをずっとやっている教え子で、小学校から中学校へ上がる際に吹奏楽もやりたいという相談があった。資料2-4では好きな活動ができるとなっているが、両方とも団体競技でありメンバーとして取り合いになってしまうのではないかと、という懸念があるということだった。大会やコンクールが近くなってくればそちらを優先して、ということになるだろうが、選べることにより弊害もあるのではないかと。

## 【会長】

吹奏楽とバレーボールを掛け持ちしているような事例はあるのか。

**【委員】**

ウィンタースポーツとの掛け持ちをしている生徒はいるが、吹奏楽とバレーボールのような入り方はない。

**【委員】**

禁止しているわけではないが、練習時間が被ってくるので、難しい。

**【委員】**

人数が少なく3年生が抜けるとチームが組めないような状況の時には、文化部の生徒が文化部に所属しながら大会に出るようなことはあるが、活動が多くない部から出ていることが多い。吹奏楽や合唱は休日も含めてみんなで練習をしていくものなので、掛け持ちは厳しいのではないか。小学校時代にその競技を行っていた生徒以外は、何件か事例も見たがそのような形だった。

**【会長】**

高校生の合同チームのような形は中学校ではないのか。また、移動や休日練習、試合の出場はどうしているか。

**【委員】**

中込中学校と連携して、バスケットボール部を受け入れ、バレーボール部を受け入れてもらっている。移動は近距離なので自転車を使用している。休日も一緒に練習しており、試合も合同で出場している。先進事例として、南佐久郡でも合同で大会に出場している。

**【委員】**

県の地域スポーツクラブの役員をやっており、毎年情報をたくさんもらっており、情報過多で何が本筋でどのようにやっていけばよいのか分からなくなっている。日本スポーツ協会、県スポーツ協会の話を聞いても、結論が出ない。部活動を地域移行する、ということの本質的にどういうものかと考えた時に、子ども達の継続的なスポーツの維持と教員の負担軽減を考えると、土日を地域に移行していくつかの学校が集まって活動するのは一つの方法、平日については学校から外に出して部活動をするという形ではなくて、学校に有資格者が行って顧問として指導するような地域移行であれば意に沿ったものになるのではと考えている。平日も完全に学校から出してしまうという思いで全体が動いているような気がするが、そこは違うのではないかと考えている。

長野県では学校から子どものスポーツ活動を外に出してしまうというのは移動の面からも非常に大変で、都会であれば電車などで移動できるが長野県では難しい。南佐久で行っているように、バスを出すなど根本的に考えていかないとなかなか難しいのではないか。佐久市ではモデルケースが動き出しているが、そこに予算付けがないのはおかしいので、7年度予算では難しいと思うが、その辺りについては検討してもらいたい。

### 【事務局】

お金の関係についてかなり意見をいただいているが、この場で出す出さないについては言えないが、検討していく必要がある。他の自治体の例についてお話もあったが、どんな状況になっているか調べていきたい。謝礼については剣道連盟での事例もあったが、団体によって考え方がそれぞれにある。そのなかで、佐久市としてどうしていくのかという答えを出していくことは、どこがこうだから、という整理はうまくできない。慎重に検討していくことが必要。金額については基本額を決めれば、という話もあるが、例えば1人何万円渡してこれでお金については決着している、というのは乱暴になってしまう。佐久市の中学生は2,400名程度おり1人当たりいくら出す、となった時に、部活について毎年その金額が交付されていくことになるが、佐久市全体としての運営・継続負担という中で持続可能なやり方なのか、ということも踏まえながら検討を進めていく。

### 【委員】

令和6年度のモデルケースのところで課題をクリアにして、令和7年度に試算・運営する。そこに投資していないと、バスケットボールやサッカーをやった時にどのくらい予算付けが必要か分からないから、そこにお金を払わなければならない。実際に剣道やバレーボールに移動費を負担してみて、1年間でどのくらいかかったから、他の競技にもどのくらいお金がかかる、ということ計るためにモデルケースがあるのではないか。人材派遣についても、ここに人材を送ってみよう。その人材に関してどのくらい活用できるのか、ということ今年度が終わったところで課題をクリアにできる。そのようにモデルテストしてみなければ他の団体が行う時にどのくらいかかるのか試算できないので投資すべきだった。1年遅れてしまうかもしれないが、来年度やってみてどのくらい試算ができるのか計算してやっていく必要がある。

部活動をやっている非認知能力が高まるというのは、自分は部活動の指導を今まで一生懸命やってきたので身をもって重々知っているが、地域移行するのはなぜか、と言ったときに学校だけではなく地域全体で高めていこうということでスタートしたのだと思っている。学校だけでやれるのではないか、ということではなくて、持続可能でないならば地域みんなで佐久の子ども達の非認知能力を高めるべきなのではないか、ということで進んだこの2年間だったのではないかと思っている。学校からなくしてしまえば、佐久の子ども達から非認知能力がなくなるか、という考え方はちょっと違うのではないか。

### 【事務局】

現実問題として、地域が部活動全ての面倒を見られるかということ、都会であれば可能かもしれないが、地域にそれだけの受け皿があるかということ難しい。少なくとも土日は地域で、というのが佐久市の方向性になっている。そもそものスタートが教職員の負担軽減であったが、それを前面には出しにくい状況であり、地域として子ども達の成長と一緒に見ていきましょう、となっている。できるところでやらせてもらいたい、という

のが佐久市の考え方。学校の教員・生徒の部活動状況の兼ね合いをみてというのが教育長の意向である。

#### 【会長】

子ども達は佐久市の宝であり、お金がないからできない、ということにはしたくない。先行しているところに予算を付けるというのは大事なことである。佐久市としては他にも予算が必要、というところはあるが教育委員会としては子どものことは絶対に佐久市の宝、国の宝ということを強調して、予算確保に動いてもらいたい。

#### 【委員】

県立武道館の関係については、スポーツ振興課がよい返事でなく申し訳ないが、国の実行会議においても学校施設の優先利用や減免などについてはルール作りをしており、それができてくれば、前向きな回答もできてくるのではないかと考えている。県では県立高等学校の体育館やグラウンドの使用許可について研究しており、来年度中には決着したいと考えている。

課題として交通手段と経費負担について話があったが、それについては本当に大きな課題であるが、昨日国のワーキンググループがあり中間とりまとめが春に報告されるが、財政的支援については「国、都道府県、市町村が支え合いながら、適切な支援を行うこと。」となっている。ここから、国も何らかの財政的措置をしなければと考えていて、将来的に部活動指導員と同じような補助を考えているのではないかとと思われる。

佐久市にも令和7年度の実証事業に手を挙げてもらっているが、県内の先進自治体では指導者報酬は市町村負担になっているが中身は国の委託事業で10/10出しているところが多いが、実証事業が外れた際には果たしてはしごが外されて実施していけるのか。実証事業で報償費をバンバンもってくるのは危険で、佐久市のようにある程度の費用負担を受益者から求めて一番必要なコーディネーターにお金をかけて活躍してもらおうという考えは正解なのではないか。

また、指導者確保について、人材バンクのチラシを作成するということが、いきなり指導者を募集する、というのはハードルが高いので県でも指導者だけでなく協力者を募集しており、活動を見守って協力していくうちにだんだん指導をできるようになっていく、というやり方もいいのかなと思う。

・その他、別紙資料について説明あり。

#### 4 その他

来年度の子定について事務局より説明

#### 5 閉会